

目次

避難に関する情報	
1	情報伝達経路
2	特別警報
2	避難のポイント
地震対策	
3	マグニチュードと震度
3	地震の揺れと被害想定
3	地盤、斜面等の状況
4	地震発生時の行動パターン
5	地震発生そのとき
6	わが家の安全チェック
風水害対策	
7	大雨情報キャッチ
7	風の強さ吹き方
7	台風
7	集中豪雨
8	氾濫等
8	河川の氾濫と避難情報
9	土砂災害の種類
9	危険箇所チェック
9	土砂災害警戒情報とは
10	イエローゾーン・レッドゾーン
10	住民の取るべき行動
11	避難の心得
原子力災害	
12	原子力災害から身を守るには
12	事故が発生したら、正確な情報を入手してください
13	まずは屋内退避
13	自宅の外にいたら
14	避難の指示が出たら
14	一時集合所、避難退域時検査等とは
14	中継所兼基幹避難所、避難所とは
火災対策	
15	10の心得
15	火災報知器
16	火災時の行動
地域における防災対策	
17	自主防災組織
18	要配慮者のために
応急手当	
19	応急手当
備蓄品および非常時持出品	
20	備蓄品および非常時持出品
20	ローリングストック法
避難行動の留意点	
21	避難行動の留意点
避難場一覧	
22	大宮地域
23	山方地域
23	美和地域
23	緒川地域
24	御前山地域
24	福祉避難所
24 医療一覧	
わが家の防災メモ	
25	わが家の防災メモ
27 関係機関の連絡先	

避難に関する情報



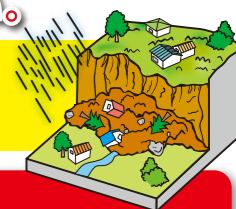
特別警報

特別警報について

「特別警報」が発表されたら、ただちに命を守る行動をとってください。

特別警報が発表されたら

- ・尋常でない大雨や津波等が予想されています。
- ・重大な災害が起こる可能性が非常に高まっています。
- ・ただちに身を守るために最善を尽くしてください。



特別警報の発表基準

現象の種類	基準
大雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降水量となる大雨が予想され、若しくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合
暴風	暴風が吹くと予想される場合
高潮	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により高潮になると予想される場合
波浪	高波になると予想される場合
暴風雪	数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合
大雪	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合
津波	高いところで3メートルを超える津波が予想される場合(大津波警報を特別警報に位置づける)
火山噴火	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が予想される場合(噴火警報(噴火警戒レベル4以上)及び噴火警報(居住地域)を特別警報に位置づける)
地震(地震動)	震度6弱以上の大きさの地震動が予想される場合(緊急地震速報(震度6弱以上)を特別警報に位置づける)

避難のポイント

危険を感じた場合は、市からの避難情報を待たずに避難しましょう。

外出が危険なときは、家の2階などの少しでも安全な場所に移動する。

夜間の避難は危険。可能な限り明るいうちに避難する。

いざという時、居場所を知らせるために、笛(ホイッスル)を持っておく。

非常持ち出し品は必要最低限にとどめ、背負って両手が自由に動かせられるようにする。

運動靴を履いて避難する。長靴は水が入って歩にくく危険。はだしは厳禁。

道路冠水時は、側溝、水路、マンホール(ふたが外れている)が分かりにくく危険。ふだん通っている道でも真ん中を慎重に歩く。

流水や冠水の中で歩ける浸水はひざぐらい(男性は70cm、女性は50cm程度)が目安。それ以上なら無理をせず、高いところで救助を待つ。

古くなった橋などは渡らないようにする。

垂れ下がった電線に触れない、近寄らない。

田んぼや畑、河川の見回りは避ける。

先導者は、くぼみや溝を確認するために、長い棒をつえにしながら歩く。

必ず2人以上で避難する。道路冠水時は、ロープでつないで避難する。

避難前に、ガスの元栓やブレーカーを切り、火の始末や戸締まりをする。

原則として徒歩で避難する。特に地震時は道路が被害を受け危険。

隣近所に声をかけ、集団で避難する。病人や歩行困難な人を背負うなどして地域で助け合う。

情報伝達経路

災害時情報伝達経路

